

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市中部身体障害者福祉会館	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人 川崎市身体障害者協会 ・代表者名 理事長 中込 義昌 ・住所 川崎市川崎区大島1-8-6	評価者	障害福祉課長
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害福祉課

2. 事業実績

利用実績	[講習会・ボランティア育成事業] ・手話入門(昼):全5回 36名 ・朗読入門(昼)①:全4回 21名 ・朗読入門(昼)②:中止 ・手話入門(夜1):全6回 13名 ・ボランティア講習会:全2回 29名 ・朗読講習会:全1回 2名 ・手話入門(夜2):全6回 47名 ・福祉講座:全1回 4名 ・聴導犬講習会:全1回 31名 ・親子手話教室:全4回 10名 [作業室]平成31年3月31日現在 ・在籍数:生活介護 16名(前年比1名減) 就労継続支援B型 5名(前年比1名減)		
収支実績	身障会館 (円) 収入 20,720,523 委託料他 20,617,000 その他 103,523 支出 23,530,785 人件費 17,869,628 事務費 1,323,784 事業費 315,549 施設管理費 4,021,824 差額 ▲ 2,810,262	障害者福祉サービス (円) 収入 46,297,488 利用料他 45,862,613 その他 434,875 支出 41,610,202 人件費 33,976,586 事務費 3,572,839 事業費 3,289,040 施設管理費 682,737 その他 89,000 差額 4,687,286	
サービス向上の取組	・会館では、新規講座の取り組みとして、聴導犬講習会やバラスポーツ講習会の開催に向けて、多くの時間と労力をかけて実施した。また、会館利用が伸び悩む中、新規団体登録があるなど、地域活動を促進できるよう、取り組みを行っている。 ・作業室では、朝礼にて利用者から司会を行う等、能力向上への取り組みを行うとともに、利用者の高齢化・重度化に対応するため、昨年度より引き続き看護師を毎日配置し、利用者の健康管理や口腔ケアに取り組みなど、サービス向上に取り組んでいる。		

3. 評価 (評価段階: 5~1, 標準: 3, 加点割合: 5→100%, 4→80%, 3→60%, 2→40%, 1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) ・会館では、地域との連携・地域開放の取り組みとして、コミュニティカフェを実施し、地域の方がボランティアとして活動するとともに、障害のある方との交流のできる場所として取り組んでいる。 ・作業室では、利用者の主体性・自主性を尊重した取り組みとして、利用者自身が地域のフォーラムで、日頃の作業室の活動について講演を行うなど、地域との関わりづくりの支援等を行った。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3	
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
(評価の理由) ・全体として良好な収支状況である。必要に応じ税理士法人から助言を受け、適正な会計処理を執行している。					
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
(評価の理由) ・会館では、会館専用ホームページの開設準備に取り組み、パソコンやスマートフォンを利用する方々を含め、幅広い世代に情報提供ができるよう、サービス向上に取り組んでいる。 ・利用者意見を反映するため、作業室入口に投書箱を設置するとともに、「思いカード」を活用し、意見反映に取り組んだ。また、満足度調査の結果として、概ね満足されている方が98%に達したこと、また、利用者団体からの要望に応じて、会議室に設備を導入するなど、サービス向上に取り組んでいる。 ・作業室では、工賃向上が課題とした第三者評価の結果を踏まえ、PC関係の新たな作業の受注とともに、利用者全員ができる作業に取り組み、昨年度より平均工賃が向上した。					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	4	4
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな取り組みとして各職員による「個人別業務チェック表」による日常業務の自己点検や、振り返りによる管理者との面接などを通して、資質向上の取り組みを行った。また、地域との連携やネットワーク構築などのスキルアップを目的に外部研修を受講しており、受講した職員が伝達研修を行い、事業所内で情報の共有を図るなど、スキルアップに寄与した。 非常災害に備えた取り組みとして、会館利用者の災害時用物品を新たに備蓄するなど、非常災害対策の強化を図った。また、安心安全の取り組みとして、防災訓練・避難訓練を2月に1回行うとともに、ヒヤリハットも報告を取り、月一回の職員会議等にて、周知・検討し、再発防止を図るなど、資質向上をの取り組みを行った。 コンプライアンスの遵守について、「コンプライアンスに関する取り扱い要綱」を策定し、職員全員にて確認を行っている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な利用に支障をきたすことのないよう、毎日チェック表により施設設備の点検を実施している。 施設管理について、概ね適正に管理運営を行っている。 					

4. 総合評価

評価点合計	72	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E/標準:C/A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・地域との連携を重点を置き、コミュニティカフェの実施や地域フォーラムへの参加など、積極的な取り組みがみられる。また、近隣小学校からの依頼で、館長が小学校で小学校についての授業を行い、また生徒たちによる施設訪問により作業室利用者と交流を行うことができています。また、地区民生委員児童委員協議会で、地域の中の障害者のふれあいとして講演を行う等、今まで以上に地域との連携を重視した運営に取り組んでいる点は評価できる。

・作業室においても、新たなPC作業の受注や全員ができる作業を取り組みを行い、また、新たな販売会に参加し販路を開拓する取り組みを起こった結果、昨年度より平均賃金が向上したことは評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・来年度以降も引き続き、各事業において質の高いサービスを提供し、障害者の自立と社会参加の促進が実現されるよう取り組んでいくこと。